

SSH 大沼環境調査（1学年）

6月22日（火）～24日（木）の三日間、1学年の『SS 研究基礎』の授業の一環として、大沼国定公園一帯を対象とした環境調査を実施しました。生徒たちは事前学習の際に感じた疑問や自らが立てた問いの解決を目的に調査に臨みました。

【最深部水質調査コース】

大沼最深部まで船で移動し、採取した水の水温やpH、電気伝導度等を測定しました。また、透視度板を用いた水の透明度の測定や、プランクトンネットを使って採取したプランクトンの観察なども行いました。



【植生調査コース】

環境相自然公園指導員の金澤晋一氏を講師としてお招きし、大沼周縁部をバスで巡検しながら植生について学習しました。事前学習で得た知識と照らし合わせながら説明を聞き、学びを深めることができました。



【流入河川水質調査コース】

大沼に流入する3つの河川をめぐり、河川水の採水を行いました。透視度計を用いた透明度の測定や、水温、pH、電気伝導度などの測定を行いました。3日間の調査を通じて、天候による水質の変化や、水域の違いによる差異を調査することができました。



【沿岸水質・土壌調査コース】

大沼沿岸の3カ所で採水を行い、水温、pH、透明度、電気伝導度の測定を行いました。また、周囲の植生を観察しながら沿岸の土壌のpHも測定し、土壌や地形が水質や植生とどのような関係にあるか調査を行いました。



現地での調査終了後、学校に戻ってから水質調査テストを実施しました。採取した試料水に含まれる栄養塩濃度やCODをパックテストにより測定したり、官能試験（嗅覚測定法）を行ったりしました。

生徒からは、「大沼周辺の環境について理解が深まったので、ここからさらに探究して環境改善に向けて取り組みたい。」「現地で調査して初めてわかったことも多く、興味関心が高まった。」といった声も聞かれました。

今後は調査内容を基に、大沼周辺地域の環境改善を中心にテーマ設定を行い、探究活動を行う予定です。